日本画家・石本正（いしもとしょう）。初の大回顧展

石本正（1920-2015）は現在の島根県浜田市三隅町に生まれ、京都を拠点に活躍した日本画家です。2020 年が生誕 100 年にあたり、これを記念して全画業を紹介する初の大回顧展を開催します。
約 14,000 点の石本作品を収蔵・展示し、そのほとんどを門外不出としてきた浜田市立石正美術館（島根県）の作品をはじめ、これまで一堂に会することのなかった代表作の数々。そして絶筆となった「舞妓」やアトリエから新たに見つかった素描類など、合計約 180 点におよぶ作品によって画家の足跡をたどります。（会場によって点数は異なります）
地位や名声を求めず、最期の瞬間まで絵ひと筋に生きた石本正の生涯と創作の原点を紹介する大回顧展に、どうぞご期待ください。

「のれん」1970（昭和45）年（部分）／個人蔵

石本正

ishimoto sho

予告

生誕一〇〇年 回顧展

石本正生誕 100 年
ISHIMOTO SHO 100th Anniversary of birth

	2021年 会期	会場	展示作品数（予定）
松江会場（島根）	4月2日（金）～5月24日（月）	**島根県立美術館** 島根県松江市袖師町 1-5	約 160 点
愛知会場	9月11日（土）～10月24日（日）（予定）	**一宮市三岸節子記念美術館** 愛知県一宮市小信中島字郷南 3147-1	約 80 点
静岡会場	10月30日（土）～12月19日（日）（予定）	**浜松市秋野不矩美術館** 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 130	約 40 点
	2022年		
浜田会場（島根）	1月25日（火）～4月10日（日）	**浜田市立石正美術館**	約 80 点

※このチラシの内容に関するお問い合わせは、浜田市立石正美術館まで。

【浜田市立石正美術館】 〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589 tel/0855-32-4388 fax/0855-32-4389
e-mail sekisho@mx.miracle.ne.jp 公式ホームページ http://www.sekisho-art-museum.jp/

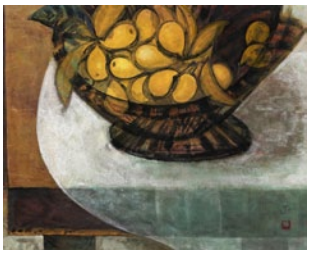
◆主 催◆ 開催美術館、朝日新聞社（静岡会場以外）ほか ◆特別協力◆ 浜田市立石正美術館 ◆協賛◆ NISSHA 株式会社（全会場共通）

【展示予定作品】

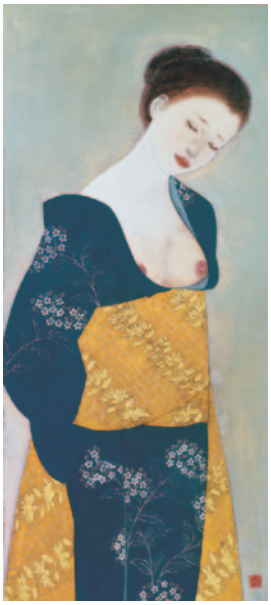
「自画像」1940 年代／個人蔵
（浜田市立石正美術館寄託）
全会場

「風景」1948（昭和 23）年／京都市美術館蔵
松江会場のみ

「五条坂風景」1950（昭和 25）年
個人蔵（浜田市立石正美術館寄託）
全会場



「枇杷」1953（昭和 28）年
浜田市立石正美術館蔵
全会場



「女」1976（昭和 51）年
箱根・芦ノ湖 成川美術館蔵
松江会場のみ

「双鶴」1956(昭和31)年
浜田市立石正美術館蔵
全会場

「裸婦」1967（昭和 42）年／個人蔵
静岡会場のぞく３会場

「舞妓（未完）」（絶筆）
2015（平成 27）年
浜田市立石正美術館蔵
全会場

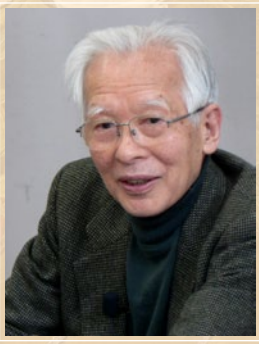
「牡丹」1989（平成元）年
浜田市立石正美術館蔵
松江会場のぞく３会場

「水辺（大山山麓）」1968（昭和 43）年
島根県立美術館蔵
松江会場のみ

「のれん」1970（昭和 45）年／個人蔵
全会場

【石本（いしもと） 正（しょう）（1920-2015）】

画（え）を描くのは楽しい　それは生きる喜びでもある



島根県那賀郡岡見村（現浜田市三隅町岡見）に生まれた石本正は、20 歳の時に、絵を学ぶため京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）に進学します。本格的に画家として歩み始めた戦後の日本では、最新の海外の文化が次々に紹介され「これまでの保守的な日本画では海外に通用するものは生まれない」という論調が目立つようになっていました。そんな中、世間の流行に左右されない姿勢を保ちながら、中世ヨーロッパのロマネスク美術や日本の仏像をはじめとする古典美術などから多くを吸収しつつ独自の表現へと発展させていきます。ペインティングナイフで絵具を削り、コンテを使っての下絵など西洋の技法も貪欲に取り入れながら、現代に生きる自分にしか描くことのできない日本画を目指しました。

こうして試行錯誤を繰り返すなか、やがて石本芸術を語るうえで欠かすことのできない〈舞妓〉や〈裸婦〉の作品が誕生します。体温や肌の質感、また心の内までも感じさせるリアリティーを追求したこれらの女性像は、それまでの日本画にはない革新的な人体表現でした。これらが評価され、50 歳の時に「第 21 回芸術選奨文部大臣賞」と「第 3 回日本芸術大賞」を受賞。しかしその後は、いかなる賞もすべて辞退するようになり、絵を描くための時間をより一層大切にしていきます。常に独自の世界を追求しつづける厳しい姿勢で、華麗で妖艶な裸婦や花、風景など多くの作品を描き続けました。

生涯、地位や名声を求めることなく、絵を描く心を大切にし続けた画家としての姿勢とすぐれた表現力は、今もなお多くの作家に影響を与えています。